



みらいつうしん

3月号

2021年3月1日
 田園調布学園大学
 みらいこども園
 園長 勝浦 芳

*:

子ども達の成長を願って

園庭の梅の花も赤く色づき、子ども達に「春だよ」と春の訪れを優しく教えてくれています。いよいよ園生活は年度の締めくくりの時期を迎え、各クラス進級や進学を視野に入れ活動を行っています。コロナ禍でも様々な経験をしてきたことで一人一人ができることが増え、自信や成長につながってきたように思います。今日までみらいこども園の教育・保育が無事に継続しているのは、保護者の皆様のご理解とご協力があるからこそ感謝しております。春の訪れのように、このままコロナの終息が現実となり、普通の生活に戻ることを切に願います。

先日、楽しみにしていた「ワクワクげきじょう」が、保護者の皆様のあたたかいご声援と見守りの中でほし組さん、そら組さん、にじ組さんが順番に、クラス毎本園のランチルームで行われ、一年間で得た体験や学びの成果を発表しました。子どもたちは少し緊張した中にも、前日までの姿とは想像つかないほどの頑張りを見せ、自信にあふれた頼もしい表情で一杯でした。きっと、子どもたちなりに、「今日は特別な日だからしっかりしなくちゃ」ということが分かっていたのかもしれないですね。改めて、子ども達の力と信じる大切さを教えられように感じます。また、保護者の中にも感動して涙ぐんでいる方々もあり、お子様の成長をお伝え出来て良かったと思えました。この「ワクワクげきじょう」の舞台裏には、作品の完成までには、お互いに心を通わせ、笑ったり、泣いたり、時には意見のぶつかり合いをしながら一つ一つの経験を積み重ねてきた担任と子ども達のたくさんのドラマがありました。大人は、結果の良し悪しに着目したり、他と比べて評価したりしてしまいがちですが、重要なのは1つの目標に向う時に、いかに関り何を学んだかのプロセスが大切であり、体験を通じ努力や過程こそが将来の人生でかけがえのない宝物になると常々感じています。また、乳児さんや他学年の子ども達も、劇遊びを見て、きらきらとした眼差しを浮かべながら、「僕もやってみたい、私はあれがいい」「かっこいい」「素敵」等といろいろな思いを素直に発言し、動きや台詞を真似して楽しんでいる姿も見られ、それぞれが次へのステップを目指す良い刺激を受けていました。みらいこども園は、日頃から人との関わりをととても大切にしていますが、どのような出会いをするかによって、将来の目標や目的が見つかると思います。これからも友達の絆が深まり、普段の遊びもより一層広がり、子ども達の糧になって欲しいと願っています。

にじ組さんと過ごす日々は残り少なくなりました。園生活の中で出会う様々な発見にときめき合い、友達や保育者と喜びを分かち合ってきた日々を思い出すと、子ども達の笑顔と成長が目に見え胸が熱くなります。この思い出を胸に小学校入学への良き架け橋になるよう締めくくりたいと思います。また、進級を迎える子ども達についても、自信を持って次へのステップに進めるよう、職員一同気を引き締めて、教育・保育に臨みたいと思います。一年間の保護者の皆様のご理解とご協力、本当にありがとうございました。

